

た。

新規加入 個人25名 退会 団体1, 個人15名

2. 第26期の委員会の構成について

各委員会の担当理事から報告のあった委員会の構成員について審議の結果, 第26期の各委員会の構成が決まった。

3. 評議員について

第26期の評議員について総合計画委員会から検討原案が提示された。審議の結果, 原案にもとづいて各候補者に就任依頼をすることになった。

4. 奨励金受領候補者の選考について

奨励金選考委員会から候補者について報告があり一部修正の上承認された。細則にもとづく全理事の無記名投票を行うことになった。

また, 奨励金選考委員会から, 日程を2カ月早めること, 募集方法の改善教育関係選考委員の選出の改善について提案があり承認された。

5. 会員データベースの構築に関する契約について

- ・会員データベースの構築に関する仮契約書について説明があった。(気象学会と UAP の仮契約書添付)

主な機能: 「入退会, 住所管理」「購読誌の管理」「会費請求」「学会発行の各誌の発送ラベルの出力」「各誌の在庫管理」等の

事務処理

なお, 一般的なデータベースの構築と今後の機能拡張について活発な審議が行われ, 中村, 佐藤, 松原, 村上各理事が今後の機能のあり方を検討して行くこととした。

6. 1991年度予算案・事業計画案について

第2回理事会(京都)に提出する原案作成のため, 特に新規の計画について各委員会の案の提出が求められた。

7. 学術法人法(仮称)等の制定について

社団法人「日本工学会」から学術団体の保護育成, 科学者の優遇等の法制度の制定について呼掛けがあり, 主旨説明があった。

審議の結果, 気象学会としてこの主旨に賛同の方向で回答することとした。

8. 「地球惑星科学関連学会連絡会」への参加について

同連絡会から参加呼掛けの案内があり総合計画を中心に検討した結果が紹介された。審議の結果, 合同大会に全面参加は気象学会としては困難なことが多い。しかし, 関連学会が情報交換のため連絡会を持つことは賛成である。発表会には, 気象学会として共催が適当なセッションには参加することとする基本方針が決まった。また, 連絡会には参加することとし, 分担金の負担も承認された。

**編集後記:** また編集に携わることとなりました。この3年の間に委員の半数が若手に代わり, 皆さんの元に新しい息吹をお届け出来るのではないかと思います。

今年の夏は連続して3個も紀伊半島へ上陸するなど, 台風についての話題に事欠かない年でした。予報課の太平洋台風センターは台風特別実験(SPECTRUM)実施のため8月から9月にかけて忙しい毎日でした。強化観測は6個の台風について延べ17日間実施され, 国内15地

点の高層臨時観測回数は458回に達しました。宮古島では台風17号の通過で大きな眼に入り, オメガゾンデ観測にあたっていた気象研究所のスタッフが, 蚊の大群に襲われるという特異な経験をしたとの報告もありました。本実験は12月に開かれる「台風特別実験評価会議」を経て, 集められたデータの分析等, 台風予報技術の向上を目指す研究段階に入ります。これらの成果が「天気」誌上にも登場することを期待したい。(Y. Y.)